

テーマ

「中学生のもつ場における意欲」

研究対象

中学生、中学生を中心とした若者全般

研究方法

3つにテーマを分けて研究を進めた。

研究 1

<授業を中心とした中学生の学習意欲研究>

中学校現場で、中学生の学習・生活意欲を促進する学校内の「場」づくりの条件とその具体的な姿を明らかにする。(教科の授業場面、特別活動場面、それらを含めたスクールカリキュラムプランニング)

- 理論研究+授業観察、分析を中心とした研究
- …心理学的視点からのアプローチ

国立教育研究所教育方法研究室
奈須正裕

研究 2

<インフォーマルな場における中学生の意欲研究>

中学校現場のインフォーマルな場における、「仲間づくり・集団帰属への意欲」と「学校に行く意欲」を調査し、相互の関係性とその背後にある家庭環境との関連を探る。

- 定量調査（中学生への質問紙調査）と家族面接調査をセットにした研究
- …精神医学的視点からのアプローチ

東京学芸大学助教授・精神科医
田村毅

研究 3

<場の社会史からみた動機づけのメカニズムの研究>

若者がもつ人間関係を中心とした「場」がどのような機能を果たしてきたのかを歴史的に振り返り、それを前提に、今後中学生が意欲的になる生活空間の条件について探る。

- 文献を中心とした研究+定性調査（中学生への質問紙調査、グループインタビュー）
- …社会学的視点からのアプローチ

ライズコーポレーション代表
取締役 岩間夏樹

研究の概要

テーマ設定の背景

中学校は様々な変革を求められている。間近にせまった学校完全週5日制の実施や学習指導要領の改訂、個性重視の指導への移行など、指導内容の質的見直しが必要となっている。

また、学歴信仰が崩れつつある現在、「高校入試」のハードルだけでは学習の動機づけにならなくなることが予想され、それに代わる新しい動機づけが必要になってくる。

さらに、「中学生」という時期は、周囲の人間関係が拡大し、自分以外の「他者」から受ける影響も大きくなる。学習活動を含めた彼らの行動は、「他者」との関係性の中で生み出され、その中で、意欲も形成されると考えられる。

このような状況下、中学校は「学校」という集団指導を前提とした枠組みの中で、中学生一人ひとりが個性を發揮し、意欲的に活動できる環境をいかにつくるかが問われている。

●「場」の定義 ●

「場」は、日本人が非常によく使う言葉であるが、その意味は幅広く解釈も様々である。本研究も詳細な定義づけは行っていないが、「人」と「人」との関係性があり、そこから様々な情報が生まれる場所を「場」と捉えている。(例えば「教室」は、教師と生徒、生徒同士の関係で構成されている「場」である)

目的

以上を踏まえ、中学生にとっての新しい「意欲」のモデル抽出にあたり、今回は他者との「関係性」=「場」によって形成される意欲に着目した。中学生が関わる他者（クラスメート、友人、教師、家族、大人、地域の人）との関係性を探っていくことで、新しい意欲のモデルが抽出できるのではないかと考えた。

この研究をとおして、集団や環境のなかでの人の関わりが、中学生の意欲と行動にどう関係しているのかを把握し、個人の意欲が促進され、個人の総体である「集団」としても価値を生みだすような「場」がどのようなものなのかを探りたい。